２６．５．１９
杉並区広報課

園児らが見守る中、錦鯉を放流！

19 日、区立大田黒公園では、荻窪東保育園の園児などが見守る中、新潟県小千谷市から寄贈された大きな錦鯉を公園の池に放流しました。錦鯉は、杉並区と小千谷市が、平成 16 年 5 月に締結した「災害時相互援助協定」の 10 周年を記念し、30 尾が届けられたものです。池に放たれた鯉が、優雅な姿で泳ぎまわると会場からは大きな歓声が上がりました。

新潟県小千谷市は、錦鯉の里として有名ですが、その歴史は江戸時代に遡ります。その当時、山村の暮らしの中で、食用として飼われていた鯉から、突然変異で色変わりが生まれ、その鯉を大切に育ててきました。その後、様々な研究を重ね、日本の錦鯉は海外でも高い評価を受けるようになりました。

その小千谷市の学生寮が、昭和 32 年 9 月に杉並区内に建てられたことから、地域住民との交流が始まりました。その交流は、錦鯉の寄贈にも発展。区内小中学校や公園で、たくさんの錦鯉が泳ぐようになりました。そんな錦鯉を通した交流が、平成 16 年 5 月 12 日に、「災害時相互援助協定」の締結となりました。この締結から半年も経たない 10 月 23 日、中越地震が発生し、小千谷市は震度 6 強の激震に見舞われました。また、平成 19 年 7 月 16 日にも、震度 6 弱の揺れを記録した中越沖地震が発生。災害直後から、区は救援物資や人的支援を行いました。そうした積み重ねも、10 年の節目を迎えました。

19 日、小千谷市の谷井靖夫（やついやすお）市長と小千谷市漁業協同組合の宮崎悦男（みやざきえつお）組合長が杉並区を訪問。午前 11 時 40 分から、区役所ロビーで交流 10 周年の錦鯉の贈呈式が行われ、谷井市長から、田中良区長に目録が手渡されました。

午後 3 時 30 分、小千谷市の錦鯉は、区立大田黒公園に届けられました。30 尾の錦鯉は、近くの荻窪東保育園の園児たちが見守る中、池に放流されました。この公園には、平成 8 年から 2 度に渡り、すでに錦鯉 60 尾が寄贈されています。小千谷生まれの錦鯉が、10 年以上の時を超えて、杉並の地で再会することとなりました。小千谷市漁業協同組合の職員によって放流された 30ｃｍ～70ｃｍほどの色とりどりの錦鯉が、優雅に池を泳ぎ出すと会場は大きな歓声と拍手に包まれました。

【問い合わせ先】　区民生活部文化交流課　ＴＥＬ：３３１２－２１１１ 内線３０５１
都市整備部みどり公園課 ＴＥＬ：３３１２－２１１１　内線３５７１